

問題

◎以下の設問のすべてに解答してください。解答の順序は問いません。

- (1) 19 世紀の西ヨーロッパ諸国について、自由主義と政治参加の関係について、各国の違いに留意しながら、具体的に述べなさい。
- (2) 19 世紀の西ヨーロッパ諸国において、政府と議会の関係のあり方にはどのような形があったか、具体的に説明しなさい。
- (3) 19 世紀の西ヨーロッパ諸国において、中央政府と地方政府との関係にはどのような形があったか、具体的に説明しなさい。

講評

いずれも、講義資料をよく復習しておけば十分に良い答案が書ける設問である。同時に授業中に、講義資料の復習こそ、この試験のための最善の対策であることは授業の中で説明をした。

(1)については、自由主義者が制限選挙制度の支持者であったこと、ただしそれは現状を固定化するためのもの、あるいは保守的な傾向の表れではないことをまずは説明しなければならない。講義で「漸進的民主化」あるいは「自由主義的な民主化」という言葉で解説したところもある。さらに、議会や選挙以外の政治参加の方法、例えば街頭での直接的な行動などについての考え方などに触れるとよい。革命についての自由主義の姿勢を考えれば、労働者や農民の直接行動を自由主義者がどのようにみていたのかは明らかであるといえよう。

(2)については、イギリスが「融合」、フランスが「吸収」、ドイツが「分離」という大きな特徴をまずは念頭に、後はそれを詳しく説明してゆけばいいだろう。イタリアはイギリスとフランスとの関係で言及すればよい。容易な問題だと思われたが、イギリスとフランスを混同している答案が多かったのには驚かされた。

(3)については、まず、「中央地方関係との関係」が何を意味するのか、はっきりさせる必要がある。これは、講義の中でドイツの統一やイタリアの統一の説明の際に説明したことであり、「連邦国家」と「単一主権国家」の二つを紹介した。フランスやイギリスは後者である。

総じて、冒頭に書いた、講義の復習を十分に行っていた答案と、そうではない答案が、はっきりと分かれた。そして、重要なことなのでここでも繰り返すが、試験とは、問われていることに答えなければ意味をなさない。関係ありそうなことをどんなにたくさん書いていても、設問に答えなければ意味がない。あらためてこの点を自覚していただきたい。

以上